

あいち農産物生産流通レポート

2022年9月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・ 県内トップを切って新米出荷！ あいち米初出荷式が開催されました！	(海部農林水産事務所) 1
・ 三州足助屋敷の「食の学校」での地産地消の取組	(豊田加茂農林水産事務所) 2
◎ 東日本情報	
・ 2021年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の 販売結果及び提言	(東京事務所) 3
◎ 西日本情報	
・ 新しいブランド梨「あいまずき」のデビューについて	(園芸農産課) 5
・ 愛知のふるさと食品コンテストの取組について	(食育消費流通課) 6
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)	22

※今月「情報サロン」、「フラワーページ」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

県内トップを切って新米出荷！ あいち米初出荷式が開催されました！

海部農林水産事務所

愛知県では、8月上旬から10月にかけて「あいちの新米」の収穫が続きます。早場米の産地である弥富市鍋田では、2022年8月12日（金）に県内のトップを切って今年の新米が出荷されました。

この日、JAあいち海部鍋田支店集出荷場で、JAあいち海部、JAあいち経済連の主催により、あいち米の初出荷式が開催されました。初出荷式には、管内の出荷関係者のほか、矢野農業水産局長など県関係者も臨席しました。

一日検査員を委嘱されたあいち米キャラクターの「あぐり父さん」による出荷米の検査、出席者によるテープカットなどのセレモニーが行われた後、「あきたこまち」8,332袋（1袋30kg）を積んだトラックが集出荷場から出発しました。出荷された米はすべて1等米で、翌日からAコープを始めとした県内スーパーで販売されました。

JAあいち海部鍋田支店管内では、約266haの作付面積のうち早場米の「あきたこまち」と「コシヒカリ」が8割近くを占め、「あきたこまち」を皮切りに新米の収穫が始まります。本年産の「あきたこまち」は、4月の気温が高く推移し、田植え後の生育は順調で、7月下旬からは好天に恵まれ登熟が順調に進んだことから、成熟期は平年よりも1週間程度早まりました。作柄は平年並みで、品質は良好です。

消費者交流会（夏休み中の子どもやその家族への新米試食会）は、昨年と同様に、新型コロナウイルス感染症対策のため中止されましたが、初出荷式の前に来賓による、新米おにぎりの試食が行われました。



一等米と格付けする
「あぐり父さん」



出発式のテープカット

三州足助屋敷の「食の学校」での地産地消の取組

豊田加茂農林水産事務所

豊田市の香嵐溪にある三州足助屋敷では、足助の食文化、昔ながらの食の伝統を参加者に体験してもらう「食の学校」が年間を通じて開催されています。この「食の学校」は古民家を再現した薫風亭を会場として利用し、食材は県内産のものを使用しています。今回は、梅干し作りの講座を通じた地産地消の取組を紹介します。

1 三州足助屋敷の概要

三州足助屋敷は、1980年に開館しました。ここには、古民家、作業小屋、水車、井戸、牛舎等があり、山里の暮らしを再現した体験型の施設です。毎年、春の新緑、秋の紅葉のシーズンには各地からたくさんの来場者があり、この地域にある古い町並みや香嵐溪の絶景とともに人気のある観光施設です。



三州足助屋敷

2 「食の学校」の内容

(1) 食の体験講座

会場の薫風亭には料理教室等を開催できる広いスペースと設備が整っています。

ここでは、梅干、甘酒、豆腐、味噌等を作る講座が開講されています。各講座の定員は、12～15名で、一度講座を体験するとリピーターになって何度も受講される方が多く、時には講座の参加者のほとんどをリピーターで占める場合があるそうです。

(2) 梅干し作りの講座の様子

6月14日に開催された梅干し作りの講座では、14名の参加者が各自で漬物用の容器を持ち寄り、梅の水洗いに始まって塩を混ぜて漬け込むまでの作業に取り組んでいました。

講師のお話によると、「足助地域では、どの家でも梅の木を庭に植えてあり、初夏に梅を収穫して梅干しを漬けることが慣習になっている。」ということでした。



「食の学校」の様子

3 地産地消の取組

梅干し作りの講座では、梅は新城市産、シソは碧南市産など愛知県産の食材を使用していることを説明していました。

「食の学校」では、すべての講座で愛知県産の新鮮な食材を使用していることをPRしており、地産地消を実感することができる良い機会になっています。



新城市産の梅

2021年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

京浜市場愛知県野菜連絡会（会員会社：首都圏の青果卸売会社 30 社）が、3年ぶりに全社の集合形式により秋冬野菜販売反省会を開催し、主要野菜の販売概要や提言等が報告されました。

1 2021年度の販売概要

京浜・関東市場における販売結果は、J Aあいち経済連の取扱実績で、例年同様にキャベツが最も数量が多く、次いでトマト、ミニトマト、ブロッコリーと続きました。金額では、おおばが最も多く、キャベツ、ミニトマト、トマトが続き、J Aあいち経済連の野菜の販売実績のうち、京浜・関東市場のシェアは40%となりました。

2 トマト類の販売概要

主要品目であるトマト、ミニトマトの販売概要は以下のとおりです。

(1) 2021年作の販売経過

ア トマト

期間を通して入荷量は前年を下回りました。主力である熊本県産の入荷量が、黄化葉巻病の発生や品質低下、低温等により前年を下回ったことで、全体量も少なくなりました。単価は、暖候期を含めて堅調な販売が続きました（図1）。

販売に関しては、年末にかけて入荷量が少ないという情報があったため売込価格を高く設定して販売しましたが、12月中旬から下旬は前年並の入荷量があった結果、

滞荷を抱えました。年始以降、まん延防止等重点措置の再発令に加えて冷え込みが厳しく、荷動きの鈍い状況が続きました。入荷量減・単価高が続き、前年と同様に苦しい販売となりました。

暖候期になると、まん延防止等重点措置の解除により業務筋が回復した一方、量販店では前年を割る状況となりました。入荷量の減少や業務筋の回復により、ゴールデンウィーク明けを除いて近年にない滞荷の少ない販売状況となりました。

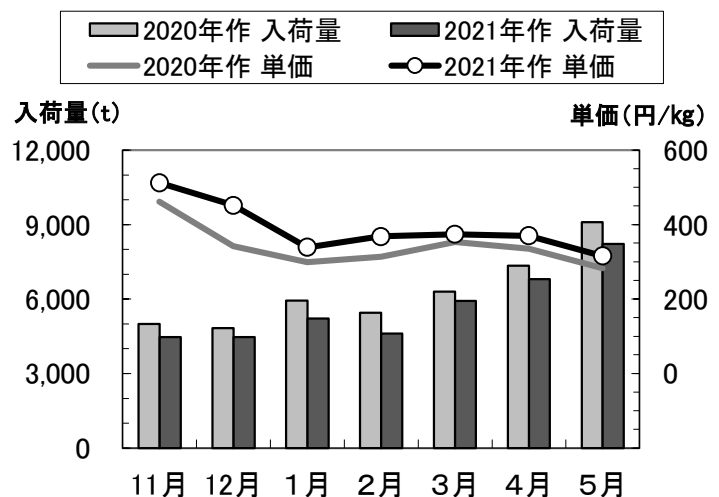


図1 東京都中央卸売市場(全市場)のトマトの入荷量と単価

イ ミニトマト

年内、年明けを通じて入荷量は前年並か前年をやや下回る状況が続いたため、単価は前年を上回る販売が5月まで続きました（図2）。5～6月の暖候期についても重油高騰が大きく影響し、入荷量が増えても一時的でピークが長続きせず、大きな出荷の山はない堅調な販売となりました。

販売状況は、前年同様に新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、量販店など小売での販売ウエイトの高いシーズンとなりました。

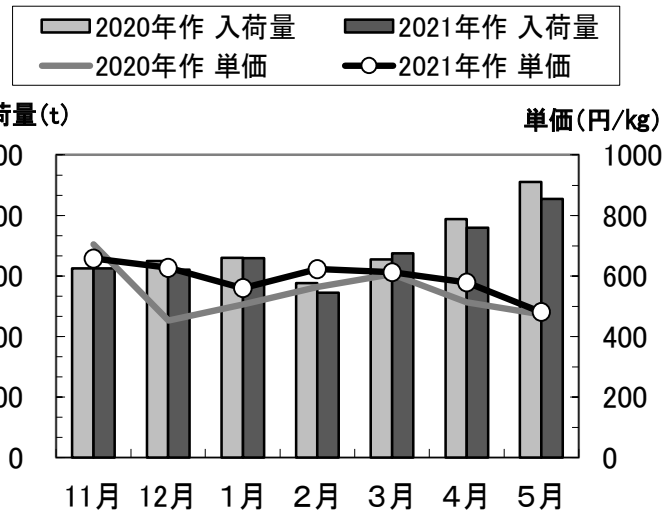


図2 東京都中央卸売市場(全市場)のミニトマトの入荷量と単価

(2) 提言

産地等での今後の取組について、同連絡会として次のような提言がありました。

ア トマト、ミニトマト共通

- ・品質の良さや、差別化により最後まで客を離さないようにする。
→季節ごとに着色を統一する。品質・食味の向上、高位平準化を図る。
- ・トマト類は味が重要である。
→他産地より味が良いものを良質な客に売り込み、味の良くないものは売らないスタンスを徹底する。

イ トマト

- ・5月以降の高温になったときの黄変果が大きな問題である。
→選果・選別を徹底する。最後まで客を離さない販売が単価にもつながる。

ウ ミニトマト

- ・量販店はパック主体、バラ主体の店舗とすみ分けができています。
業務は、パック、バラともに顧客のニーズにより選択されている。
熊本県産はバラのウエイトが非常に高い。
→愛知県産はパックでの出荷が求められ、パックでの出荷量の維持・拡大をする。

(3) 今後の取組

厳寒期は例年、寒さにより需要が減退しますが、厳寒期の消費をどう促すか、消費喚起をトマト研究会の中でも検討し、企画していきたいと思っております。厳冬期に宣伝活動を行うことで春の販売にもつなげていきたいと考えています。コロナ禍で試食ができないということは消費者に食味が伝わりにくいということであり、有効な消費宣伝を行えないという望ましくない状況が続いていますが、今後、販促活動をしっかり行い、厳寒期、暖候期の販売につなげていきたいと思っております。

新しいブランド梨「あいみずき」のデビューについて

園芸農産課

愛知県では、県農業総合試験場において、国と共同で13年の歳月をかけて、日本梨の新品種「瑞月^{ずいげつ}」（品種登録2022年2月）を開発しました。ブランド名を「あいみずき」と名付け、本県のブランド梨として普及させることを目指し、高品質果実の生産や消費者へのPRに取り組んでいます。

本年度、初めて「あいみずき」が販売されるため、知事会見での披露やPRイベントの開催など、本格的なブランド化の取組を開始しました。



シンボルマーク

1 愛知県知事による「あいみずき」の披露

2022年8月15日（月）に知事が定例会見で、愛知県の新しいブランド梨「あいみずき」の名称と、シンボルマークの発表を行いました。知事は、「あいみずき」について、「非常に甘く、シャリッとした食感で、おいしい梨なので、ぜひ県民の皆様味わっていただきたい」と発言し、PRしました。知事の発言を受け、多くのメディアに「あいみずき」が取り上げられました。



会見の様子

2 「あいみずき」のPR

ア 名古屋三越栄店でのPRイベント

2022年8月21日（日）に名古屋三越栄店において、試食イベント及び販売を開催しました。試食された方の多くが、「あいみずき」の際立つ甘さや瑞々しさに感動していました。1玉1,080円（税込）で販売しましたが、開始して間もなく完売するなど、ブランド梨としての地位確立に向け好発進できました。



イベント当日の様子

イ イオンナゴヤドーム前店での販売イベント

2022年8月26日（金）にイオンナゴヤドーム前店で「あいみずき」の販売を行いました。イオンナゴヤドーム前店には、販売前から消費者の問い合わせが相次ぎ、またイベント当日には長い行列もできる等、異例の注目を集めることができました。

2玉・100セットを売り出しましたが、すぐに完売となり、次年度の販売が待ち遠しいとの声をいただきました。

3 今後の取組

2025年度の本格出荷に向け、今後も関係機関と連携し、皆様に愛されるブランド梨となるよう引き続きPRをしてまいります。

愛知のふるさと食品コンテストの取組について

食育消費流通課


愛知県では、県産農林水産物を活用した加工食品を新たに掘り起こし、農林水産物の利用拡大と生産振興に資することを目的として、1998年から「愛知のふるさと食品コンテスト」を毎年開催しています。

今年度は応募のあった44商品について、書類による一次審査（技術又は製品の新規性、県産原料の利用度、独創性、郷土色の豊かさ、包装デザイン、ネーミング、広告宣伝・販路開拓・価格）を実施し、得点が上位の15商品について8月3日（水）に審査会で食味審査を行いました。


審査の結果、「愛知のキムチ」を最優秀賞（知事賞）、「金トビ細切りざるうどん」と「ささ屋の^{しんかいみ}深海味ラーメン」を優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）に決定しました。


なお、最優秀賞の商品を一般財団法人食品産業センターが主催する「優良ふるさと食品中央コンクール」の愛知県代表として県から推薦します。本県からの推薦賞品は、本コンクールの最高賞である農林水産大臣賞を1999年以降で9回受賞しています。

1 最優秀賞（知事賞）の概要

商品名	愛知のキムチ	
製造者	大日食品株式会社（東海市） http://www.dainichi-foods.co.jp/	
希望小売価格(税込)	200円前後/パック	
販売店舗	愛知県を中心としたスーパー	
主な原材料	白菜、チキンエキス、魚醤、玉葱、乳酸菌 他	
商品の概要 ・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県産の未利用資源(名古屋コーチンエキス、うなぎ魚醤、知多産玉葱、味噌蔵由来の乳酸菌 LTK-1)をブレンドしたあまうまなキムチ。 ・昨年の同コンテストで最優秀賞を受賞したうなぎ魚醤「^{ほんのう}鰻能」とタグを組んだコラボ商品。 	
審査講評	<ul style="list-style-type: none"> ・甘み、旨みがのって味に深みがあり、美味しい。ご飯がよく進む。 ・愛知の魅力がたっぷりと詰まった愛知愛あふれるキムチ。 ・県内の様々な事業者と連携し、食の課題解決（食品ロス削減）にも繋がる商品。 	

2 優秀賞（愛知食品産業振興協会会長賞）の概要

商品名	金トビ細切りざるうどん	
製造者	株式会社 金トビ志賀（蒲郡市） https://kintobi.com/	
希望小売価格(税込)	378 円/袋（2 人前）	
販売店舗	愛知県を中心としたスーパー 金トビ志賀直販サイト https://www.kintobi.co.jp/	
主な原材料	小麦粉、食物繊維 他	
商品の概要 ・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県産小麦(きぬあかり)を丁寧に挽いた細めのもっちりコシのあるうどん。 ・食後の血糖値、血中中性脂肪の上昇を穏やかにする成分（イソマルトデキストリン）を配合。 	
審査講評	<ul style="list-style-type: none"> ・きぬあかりの特性を引き出した商品。 ・細切りにすることより、つゆが良くからんで美味しい。 ・うどんで機能性食品というのが目新しい。 	

商品名	ささ屋の深海味ラーメン	
製造者	株式会社 笹や Group（蒲郡市） https://sasaya-group.jp/	
希望小売価格(税込)	1,620 円/箱（4 食入）	
販売店舗	笹や Group 系列店、直販サイト https://sasayagama.base.shop/	
主な原材料	小麦粉、メヒカリ魚醤、味噌 他	
商品の概要 ・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県内で唯一沖合底引網漁船を持つ蒲郡市の名物深海魚（メヒカリ）の魚醤と愛知県産小麦(きぬあかり)を使用。 ・スープ、麺、調味料、パッケージいずれも地元企業との連携にこだわった商品。 	
審査講評	<ul style="list-style-type: none"> ・魚のだしが味噌味とうまくマッチして、深みのある味。 ・深海魚の魅力を広める商品になってほしい。 ・情熱と地元愛を感じられる商品。 	

愛知のふるさと食品コンテストの出品商品については、県のWebページ「いいともあいち情報広場」で紹介しています（2022年度の出品商品は10月頃から紹介します）。

<https://www.pref.aichi.jp/nousei/iitomo/iitomoaichi/index.html>

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	389	388 (100%)	1,015	1,014	愛知(100%) — —
2022年見通し	385	—	1,025	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>ほぼ全量を愛知から入荷する。各産地、平年並の入荷量でスタートし、盆前も安定した入荷となった。一方で、6月の天候の影響から、高温障害の出ている産地もある。今後の天候次第だが、順調な入荷を見込む。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>			<p>毎年のように8月上～9月中旬頃の天候不順が出荷量に大きな影響を与えており、産地は苦勞されていると思う。 本年は8月まで天候がよく収量、品質ともに良好だが、9～10月に台風やゲリラ豪雨等の天候次第では、収量と品質が落ちる恐れもある。引き続きクレームのないよう、品質維持をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2021年実績	289	134 (46%)	1,214	1,243	愛知(46%) 茨城(10%) 静岡(9%)
2022年見通し	260	—	1,500	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産の入荷は8月下旬に始まり9月から本格化するが、前年はこの時期に業務需要が低迷し大幅な安値となった。 本年もコロナ禍であるものの、外食等の制限はかけられていないことから需要が期待でき、価格は例年近くまで盛り返すか。 入荷量は、主要2品種の「久寿」は前年並「藤九郎」は減らすと見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>ぎんなんは秋の味覚として業務筋を中心に人気が高く、10月～11月に量販店でも需要が高まる。 愛知産は品質・選別ともに良好であるものの、9月は高温、多湿の日が多く、カビの発生が懸念される。量販店では特にクレーム対象となるため注意してもらいたい。 また、3L・2Lの顧客とL及びMの顧客はそれぞれ異なるため、出荷見込みについて階級別での情報発信をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し

名古屋市中央卸売市場

8月12日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	35,398	223	243	229	200	北海道 45%
	2018年	32,706	257	265	262	242	長野 22%
	2019年	34,117	231	235	239	216	群馬 9%
	2020年	36,067	217	222	211	217	青森 5%
	2021年	34,120	252	246	271	242	茨城 4%
	5ヵ年平均	34,482	236	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	34,700	220	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。野菜全体において生育は順調で、入荷量、価格はともに平年並の予想。一部の品目では、7～8月の長雨や高温の影響により、入荷量が前年より少なくなっている。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
だいこん	2017年	2,009	99	97	121	89	青森 55%
	2018年	1,997	113	118	118	111	北海道 37%
	2019年	2,045	83	84	80	91	岐阜 6%
	2020年	1,653	111	120	102	115	長野 1%
	2021年	1,907	114	94	134	119	
	5ヵ年平均	1,922	104	102	111	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,500	140	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。各産地、コスト高、高齢化等による作付面積の減少に加え、7月の長雨の影響を受け、上旬は入荷量が少なくなる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
にんじん	2017年	2,412	89	84	91	92	北海道 99%
	2018年	1,773	194	157	202	218	中国 1%
	2019年	2,134	118	127	129	103	
	2020年	2,432	114	112	120	110	
	2021年	2,620	110	119	120	96	
	5ヵ年平均	2,274	121	118	128	118	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,400	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に入荷する。北海道は6、7月の天候不順の影響で、昨年よりやや少なくなる。道東の産地は生育順調、道央の十勝が小玉傾向となっている。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	1 3 7, 0 2 3	2 4 0	261	249	212	北海道 32%
	2018年	1 2 1, 2 9 9	2 8 2	289	290	267	群馬 15%
	2019年	1 2 4, 7 8 1	2 5 7	269	255	246	長野 15%
	2020年	1 2 0, 7 4 2	2 4 9	252	242	254	茨城 7%
	2021年	1 1 5, 6 6 2	2 8 5	272	307	280	青森 7%
	5ヵ年平均	1 2 3, 9 0 1	2 6 2	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1 1 7, 0 0 0	2 7 0	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北日本、関東周辺高冷地からの入荷となる。8月は北海道、東北で多雨となり、一部地域では冠水被害が出た。その影響を引きずり、だいこんやトマトなどでは出回りが少なくなる見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
だいこん	2017年	1 1, 7 6 8	9 7	100	109	83	北海道 51%
	2018年	1 0, 2 0 1	1 1 5	126	114	108	青森 44%
	2019年	1 0, 1 0 9	8 7	92	78	91	岩手 3%
	2020年	8, 5 5 8	1 0 7	115	97	111	群馬 1%
	2021年	8, 9 7 7	1 0 9	96	117	113	
	5ヵ年平均	9, 9 2 3	1 0 3	106	103	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	8, 6 0 0	1 2 0	125	120	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森からの入荷がほとんどを占める。8月は雨天が多く、生育遅延のほか、病害発生や品質低下がみられた。天候の回復状況次第だが、入荷の伸びが鈍いまま堅調な相場が続く。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
にんじん	2017年	8, 6 5 7	8 2	78	79	88	北海道 99%
	2018年	6, 1 4 8	1 8 3	151	190	207	中国 1%
	2019年	7, 1 2 2	1 2 0	115	124	120	
	2020年	7, 0 7 5	1 1 6	114	112	123	
	2021年	7, 7 8 9	1 1 1	118	115	102	
	5ヵ年平均	7, 3 5 8	1 1 9	113	120	124	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6, 7 0 0	1 4 0	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。生育は順調であったが、8月に降雨が多く品質低下がみられた。しばらくは入荷量の少ない状況が続く、高値基調も続く見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

8月12日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
はんぱい	2017年	2,470	107	120	123	90	長野 98% 北海道 1%
	2018年	2,468	113	99	108	127	
	2019年	2,826	104	132	90	96	
	2020年	3,028	90	107	82	85	
	2021年	2,383	131	101	178	124	
	5ヵ年平均	2,635	108	112	114	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,800	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野は9～10月出荷の作付を増やしているため、入荷量は多くなる見込み。漬物・加工需要については引き続き厳しい状況となる見込みで、量販店頼りの販売になる見通し。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キヤベツ	2017年	4,574	97	95	106	92	群馬 59% 長野 27% 北海道 11% 茨城 2%
	2018年	4,851	85	84	87	85	
	2019年	4,216	95	102	100	87	
	2020年	4,365	110	127	106	100	
	2021年	4,507	102	89	106	112	
	5ヵ年平均	4,503	98	99	101	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4,500	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。群馬と長野は生育良好で、順調な入荷を見込む。コロナ禍等の影響で、業務での荷動きが悪く、販売の見通しが立たない。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	2017年	187	797	860	817	751	岐阜 84% 茨城 5% 愛知 4% 群馬 2% 長野 2%
	2018年	145	892	867	966	872	
	2019年	166	839	932	833	793	
	2020年	151	946	892	999	973	
	2021年	205	881	980	1,001	757	
	5ヵ年平均	171	868	910	922	820	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	160	900	900	900	900	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に、一部茨城や愛知などから入荷する。岐阜は作付面積の減少や、高温の影響による生育不良で、平年より不安定な入荷となる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

8月31日現在

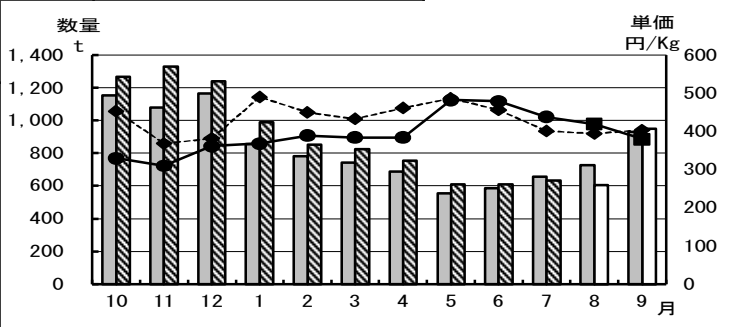
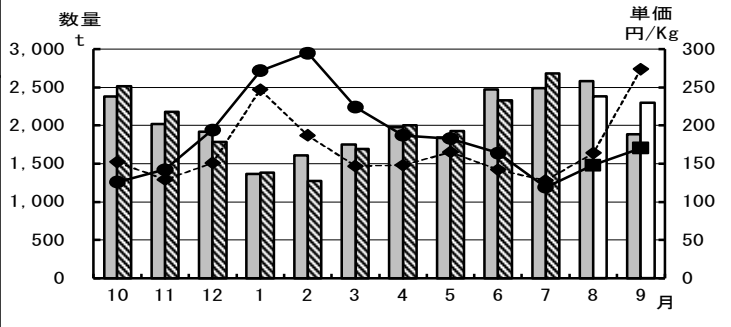
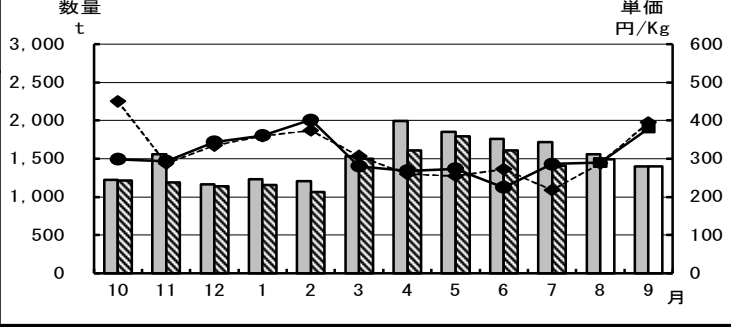
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2017年	10,701	103	117	118	83	長野 91%
	2018年	10,869	111	103	106	122	群馬 4%
	2019年	10,177	101	92	90	126	北海道 4%
	2020年	9,590	96	109	85	96	茨城 1%
	2021年	8,350	150	118	199	143	
	5ヵ年平均	9,937	111	107	117	113	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	9,500	85	75	85	95	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からの入荷がほとんどを占める。生育は順調で、品質や結球も問題はない。収穫ピークに入っていき、潤沢な入荷が続く見込み。気温低下があれば相場上昇に期待できるが、現状では厳しいか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
キヤベツ	2017年	17,258	93	91	104	84	群馬 75%
	2018年	16,827	78	75	80	79	岩手 11%
	2019年	16,788	93	102	95	82	長野 7%
	2020年	15,430	120	145	111	103	茨城 2%
	2021年	16,724	107	89	114	119	北海道 2%
	5ヵ年平均	16,605	98	100	101	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	17,000	80	75	80	85	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬を中心に、岩手、長野などからの入荷となる。群馬は定植作業が終了し収穫作業は順調に進む。生育は順調。岩手は多雨の影響で病害発生がみられる。総じて入荷は潤沢で安値基調が続く見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						
ほうれんそう	2017年	1,028	681	872	658	584	群馬 34%
	2018年	790	798	770	987	666	栃木 23%
	2019年	832	797	879	814	725	茨城 20%
	2020年	651	929	858	1,073	883	岩手 7%
	2021年	875	806	991	945	638	岐阜 7%
	5ヵ年平均	835	791	877	876	686	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	820	860	970	950	660	
そ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬など関東高冷地のほか、岩手、岐阜からの入荷が中心となる。群馬は高温対策を実施し生育順調。関東の他産地も生育は順調。岩手は降雨の影響が残る。月の前半の出回りは少なめも後半に不足はないか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						

名古屋中央卸売市場

8月12日現在

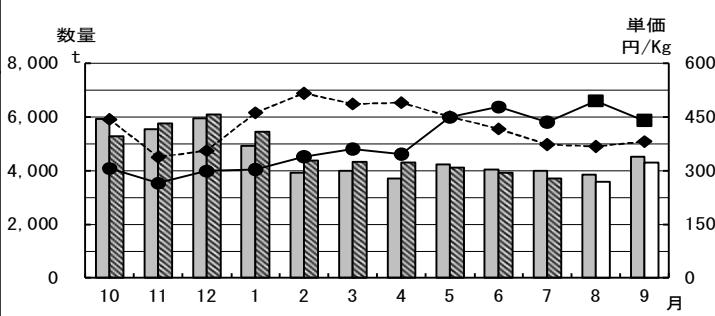
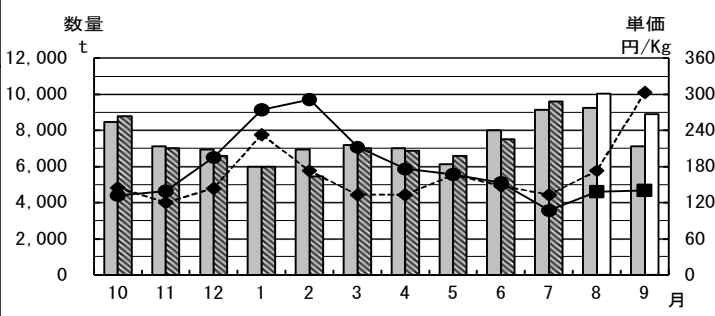
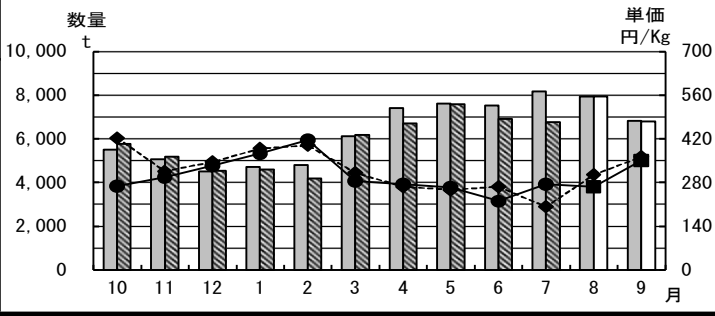
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	989	393	399	391	392	北海道 53%
	2018年	773	500	472	533	494	長野 25%
	2019年	962	376	373	362	399	富山 4%
	2020年	816	407	367	414	443	中国 3%
	2021年	932	404	394	433	401	愛知 2%
	5ヵ年平均	894	413	399	422	422	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	950	380	360	380	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野などから入荷する。愛知県産以外は順調な入荷見込み。北海道産は順調な入荷となり、ピークを迎える。富山県産は各JAで出荷が出揃い、入荷は増える見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
しそ	2017年	2,297	171	222	171	127	長野 96%
	2018年	2,371	192	179	198	202	茨城 3%
	2019年	2,474	199	199	216	185	
	2020年	2,837	128	133	117	135	
	2021年	1,887	274	259	342	247	
	5ヵ年平均	2,373	187	193	200	175	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,300	170	180	170	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野からはほぼ全量を入荷する。長野は9月上旬までは、天候の影響がなければ順調な入荷見込みで、中旬以降は天候と気温次第となる。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
きゅうり	2017年	1,419	310	373	307	258	北海道 32%
	2018年	1,300	431	428	456	407	長野 31%
	2019年	1,472	339	409	312	290	山梨 14%
	2020年	1,478	375	340	377	415	群馬 10%
	2021年	1,403	395	435	439	334	岩手 3%
	5ヵ年平均	1,414	369	396	376	340	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,400	380	380	380	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に長野などから入荷する。各産地は高温、干ばつの影響で、入荷が減る見込み。また、夏秋産地（北海道、長野）の数量が徐々に減少し、秀品率も落ちてくる見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	5, 242	378	380	375	377	青森 23%
	2018年	4, 479	484	454	535	465	秋田 23%
	2019年	4, 662	385	353	389	412	北海道 18%
	2020年	4, 153	411	348	401	485	山形 7%
	2021年	4, 513	381	393	411	348	茨城 6%
	5ヵ年平均	4, 610	407	386	421	415	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4, 300	440	450	460	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、秋田等の東北以北産地及び茨城からの入荷が中心となる。地域により8月上旬の豪雨では場が冠水するなど東北以北の各産地で雨天が多いため、天候の回復次第だが、出回りは少なめの見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>長野を中心に、群馬などからの入荷となる。主力の長野は生育順調で安定した入荷が続く見込み。群馬は高温の影響により小玉傾向も回復を見込む。入荷は潤沢で相場展開は厳しく安値傾向が続くか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>							
しめじ	2017年	9, 391	175	245	173	124	長野 84%
	2018年	8, 345	197	186	206	199	群馬 8%
	2019年	8, 928	199	206	213	177	茨城 3%
	2020年	9, 824	122	128	109	129	岩手 2%
	2021年	7, 117	303	284	399	257	千葉 1%
	5ヵ年平均	8, 721	193	206	210	172	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	8, 900	140	140	150	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北産地から関東産地への移行時期となる。東北産地は雨天が多かった影響で生育遅れがあるほか、ピークを過ぎて量を減らしていく。関東の各産地の生育は概ね順調。関東産が出回る中旬までは少なめか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>東北産地から関東産地への移行時期となる。東北産地は雨天が多かった影響で生育遅れがあるほか、ピークを過ぎて量を減らしていく。関東の各産地の生育は概ね順調。関東産が出回る中旬までは少なめか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
きゅうり	2017年	7, 790	283	360	280	228	福島 25%
	2018年	6, 719	395	406	410	361	群馬 15%
	2019年	7, 946	309	398	269	260	岩手 13%
	2020年	7, 161	346	295	367	390	埼玉 10%
	2021年	6, 813	362	407	406	299	秋田 8%
	5ヵ年平均	7, 286	336	373	342	305	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6, 800	350	380	350	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北産地から関東産地への移行時期となる。東北産地は雨天が多かった影響で生育遅れがあるほか、ピークを過ぎて量を減らしていく。関東の各産地の生育は概ね順調。関東産が出回る中旬までは少なめか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>東北産地から関東産地への移行時期となる。東北産地は雨天が多かった影響で生育遅れがあるほか、ピークを過ぎて量を減らしていく。関東の各産地の生育は概ね順調。関東産が出回る中旬までは少なめか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

8月12日現在

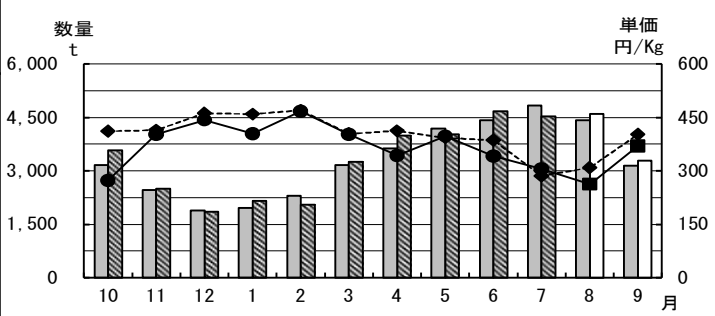
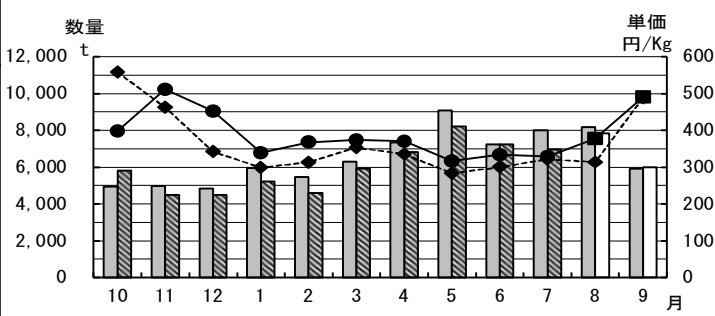
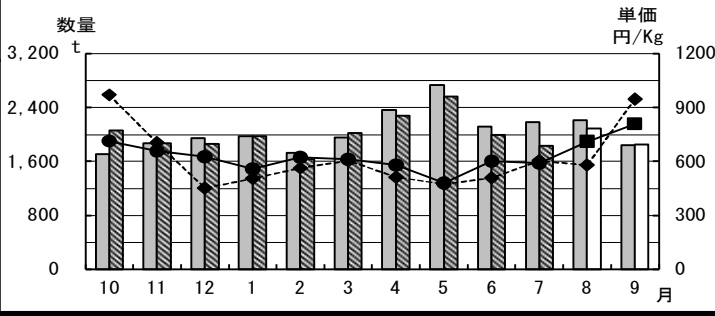
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	756	335	340	374	292	山梨 32%
	2018年	549	408	355	486	414	愛知 24%
	2019年	789	360	354	365	368	徳島 16%
	2020年	670	356	288	359	446	茨城 10%
	2021年	584	434	395	520	416	群馬 7%
	5ヵ年平均	670	374	345	413	382	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	600	360	330	380	400	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山梨、愛知、徳島などから入荷する。8月の高温による成り疲れから、数量は少なくなり、品質低下で秀品率も下がる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は大幅に下回る見込み。						
ト マ ト	2017年	1,290	474	551	480	403	岐阜 66%
	2018年	1,195	530	590	499	494	北海道 13%
	2019年	1,267	482	464	467	540	愛知 9%
	2020年	1,392	405	398	372	467	千葉 3%
	2021年	1,181	517	462	544	564	茨城 2%
	5ヵ年平均	1,265	479	491	469	492	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,200	500	450	500	550	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。7月中旬より天候良好で、平年並の入荷を見込む。7月上旬の高温の影響から、盆明けの花が落ちており、小玉傾向となる見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。						
ミ ニ ト マ ト	2017年	513	916	1,004	919	836	北海道 69%
	2018年	571	919	1,022	875	855	茨城 12%
	2019年	531	878	692	1,026	954	長野 9%
	2020年	624	620	578	588	721	愛知 4%
	2021年	512	986	938	962	1,071	青森 2%
	5ヵ年平均	550	855	839	863	880	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	580	800	700	800	900	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	北海道を中心に茨城、長野などから入荷する。北海道は、後半に向けて入荷量が減少し、茨城は中旬がピークとなる見込み。全体に数量の少ない月となり、価格も高めに動く見通し。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

8月31日現在

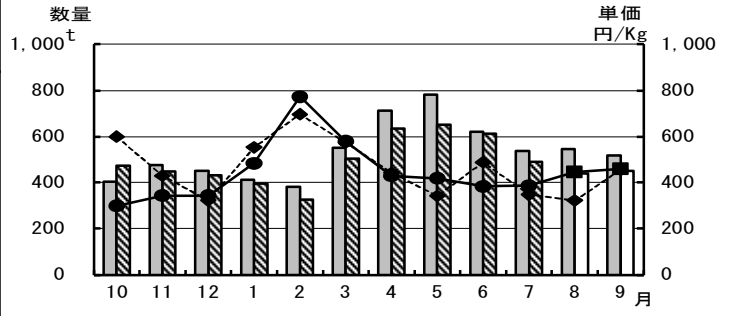
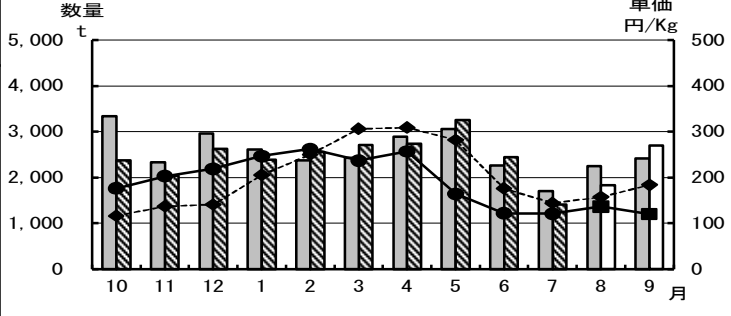
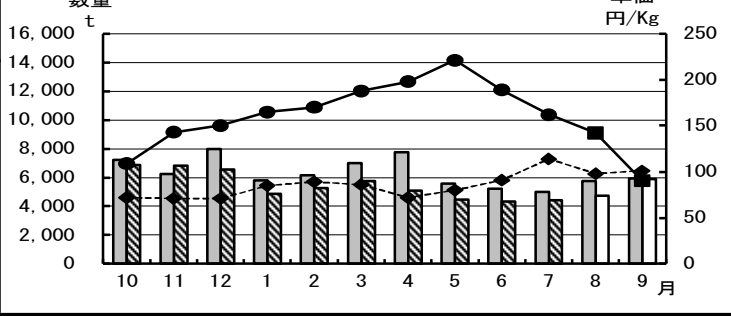
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2017年	4,084	331	364	377	262	群馬 30%
	2018年	3,281	424	394	507	372	栃木 28%
	2019年	3,662	372	340	371	416	茨城 22%
	2020年	3,795	320	259	329	412	高知 6%
	2021年	3,147	402	349	509	377	岩手 4%
	5ヵ年平均 2022年見通し	3,594 3,300	367 370	340 330	412 400	365 380	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調。一部地域では害虫の発生が目立つものの入荷量への影響はない。出回りに不足はない見込み。 入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	2017年	7,238	429	518	426	359	北海道 21%
	2018年	6,475	500	516	499	481	福島 15%
	2019年	6,321	463	473	412	532	千葉 14%
	2020年	7,018	374	354	339	461	青森 10%
	2021年	5,902	489	429	547	506	茨城 10%
	5ヵ年平均 2022年見通し	6,591 6,000	449 490	458 500	441 490	464 480	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道のほか、東北、関東産地などからの入荷となる。北海道は概ね生育順調。青森では地域により冠水被害あり出方は少ない。関東産地は高温障害が一部にある。入荷量は少なく、高値基調が続く見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2017年	2,107	835	963	873	700	北海道 31%
	2018年	2,037	873	996	830	782	茨城 17%
	2019年	1,874	829	715	886	890	青森 14%
	2020年	2,113	602	569	570	684	千葉 13%
	2021年	1,839	948	895	968	982	山形 6%
	5ヵ年平均 2022年見通し	1,994 1,850	813 810	827 820	820 810	801 800	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、東北、関東産地などからの入荷となる。北海道、茨城ともに生育順調。一部産地では冠水被害や花落ち等による出荷量減少がみられるものの、多くの産地では順調な入荷を見込む。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

8月12日現在

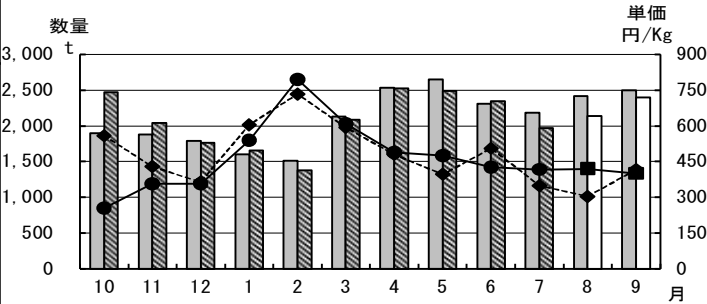
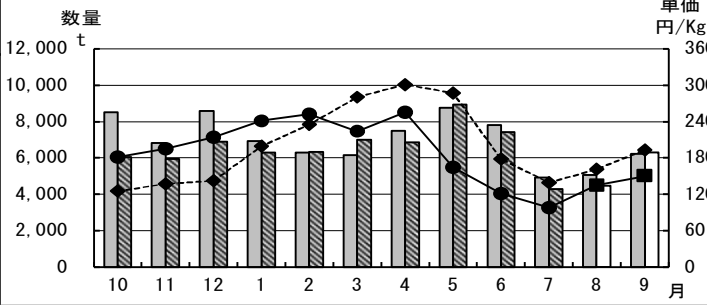
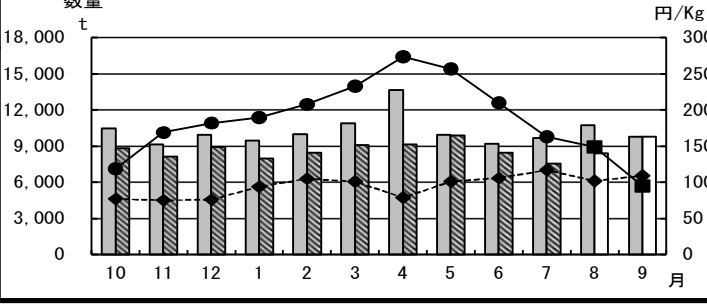
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	2017年	436	402	460	463	393	北海道 29%	
	2018年	410	488	567	526	523	茨城 26%	
	2019年	439	479	494	544	458	岩手 21%	
	2020年	493	481	497	497	505	青森 15%	
	2021年	517	456	480	480	454	宮崎 4%	
	5ヵ年平均	459	461	498	501	466	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	450	460	460	460	460		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	北海道、茨城、岩手などから入荷する。各産地、高温や集中的な雨により、不安定な入荷となる見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。							
	ばれいしょ	2017年	2,600	104	114	110	95	北海道 100%
2018年		2,570	123	127	127	114		
2019年		2,775	98	101	100	90		
2020年		3,305	110	111	107	110		
2021年		2,423	184	183	188	181		
5ヵ年平均		2,735	122	125	124	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し		2,700	120	130	120	110		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
北海道を中心に入荷する。各産地出揃い、順調な入荷で等級はL主体となる見込み。7～8月の雨に対して防除ができていない畑があれば、収量が減る恐れもある。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。								
たまねぎ		2017年	5,508	71	74	71	71	北海道 96%
	2018年	5,044	99	101	105	95	愛媛 3%	
	2019年	4,870	80	82	81	77	中国 1%	
	2020年	5,707	75	81	73	75		
	2021年	5,952	101	95	104	105		
	5ヵ年平均	5,416	85	87	87	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	5,900	90	90	90	90		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	北海道を中心に入荷する。極早生、早生品種ともに生育順調で、L大中心の見通し。生食向けの道外出荷計画は、5万6千tとなっており、昨年度より多い。 入荷量は前年並、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	2, 266	345	358	363	317	岩手 49%
	2018年	2, 156	434	455	419	427	茨城 30%
	2019年	2, 263	424	420	460	390	福島 12%
	2020年	2, 476	428	416	423	450	青森 8%
	2021年	2, 494	417	420	427	406	
	5ヵ年平均	2, 331	410	414	419	399	
	2022年見通し	2, 400	400	410	400	390	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>岩手、茨城、福島、青森などからの入荷となる。岩手や青森では多雨による日照不足で着果や肥大が悪く、入荷量は伸びないか。茨城は、高温の影響で生育不良気味も、総じて入荷に不足はない見込み。 入荷量は多かった前年をやや下回り、価格も前年をやや下回る見込み。</p>						
白菜	2017年	7, 949	108	119	105	100	北海道 99%
	2018年	6, 330	128	131	131	120	
	2019年	7, 129	107	113	110	99	
	2020年	7, 545	118	117	118	121	
	2021年	6, 212	193	194	197	189	
	5ヵ年平均	7, 033	129	133	130	124	
	2022年見通し	6, 300	150	150	150	150	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。生育は順調であったが、局地的な大雨により掘り取り作業に遅れがみられ、入荷が不安定となることが心配される。小玉傾向で出回りは少なめか。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
たまねぎ	2017年	10, 651	77	80	77	74	北海道 96%
	2018年	9, 440	108	111	110	102	中国 3%
	2019年	9, 118	84	85	86	82	兵庫 1%
	2020年	9, 635	83	87	82	79	
	2021年	9, 767	109	106	110	111	
	5ヵ年平均	9, 722	92	94	93	89	
	2022年見通し	9, 800	95	100	95	90	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。生育、肥大ともに順調。一部では気温高と多雨により病害発生が心配される。L大中心の入荷で、潤沢な出回りが見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月19日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	10,006	399	402	414	389	長野 23%
	2018年	8,523	431	468	426	414	フィリピン 14%
	2019年	8,462	441	439	414	429	青森 11%
	2020年	7,649	508	548	513	477	三重 9%
	2021年	8,340	469	488	467	463	和歌山 8%
	5ヵ年平均	8,596	447	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	8,400	470	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、りんご、みかんを中心に 入荷する。ぶどうは、シャインマスカット 中心に入荷するため、単価が上がる見込 み。りんごは、青森はサンつがるの中心で前 年並、長野は中生品種で前年より多い入荷 を見込む。 入荷量、価格はともに前年並の見込み。						
みか	2017年	1,141	347	539	394	305	三重 56%
	2018年	1,526	312	416	331	268	熊本 23%
	2019年	1,211	326	430	330	292	宮崎 11%
	2020年	1,331	352	459	375	300	佐賀 4%
	2021年	1,417	320	451	339	278	愛知 3%
	5ヵ年平均	1,325	330	456	352	287	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	1,430	330	460	340	280		
かん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	三重を中心に、熊本、宮崎などから入荷 する。西南暖地が不作のため、数量が減る 見込み。三重の露地は9月中旬よりスター トする。今後の天候次第では、日焼け果の 発生が懸念される。 入荷量は前年並、価格は前年をやや上回 る見込み。						
な	2017年	2,224	300	313	296	291	長野 70%
	2018年	1,516	330	330	329	338	愛知 9%
	2019年	1,712	364	367	373	359	新潟 8%
	2020年	1,120	509	523	508	525	秋田 4%
	2021年	1,338	429	439	409	448	富山 3%
	5ヵ年平均	1,582	371	379	368	374	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	1,400	430	430	430	430		
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	長野を中心に愛知、新潟などから入荷す る。各産地順調な生育で、玉は小さいが、 前年並から多い入荷量を見込む。昨年は豊 水以降の品種が不作で少なかったが、本年 は平年並の入荷見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年 並の見込み。						

注：前年4-5月、本年3-6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	37,384	384	394	395	366	青森 13%
	2018年	33,740	430	444	431	414	山梨 8%
	2019年	32,344	460	492	462	430	長野 8%
	2020年	27,127	573	623	574	525	和歌山 8%
	2021年	30,821	523	542	525	507	栃木 7%
	5ヵ年平均	32,283	467	—	—	—	
2022年見通し	32,000	500	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	なし、りんご、みかん、ぶどうなどが入荷する。りんごは生育順調で入荷量は平年並の見込み。ぶどう(シャインマスカット)は、栽培面積の増加により、入荷量は前年を上回る見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
みかん	2017年	2,824	318	688	347	261	宮崎 29%
	2018年	3,311	311	416	311	268	熊本 27%
	2019年	2,969	302	498	292	268	佐賀 17%
	2020年	2,853	324	427	329	291	愛媛 12%
	2021年	3,812	291	425	296	249	福岡 3%
	5ヵ年平均	3,154	308	484	314	266	
2022年見通し	3,800	315	410	290	245	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ハウスみかんは各産地終盤に入り、入荷量は平年を下回る見込み。露地の極早生みかんは9月上旬から宮崎、中旬から熊本などから入荷始まり、入荷量は前年並の見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。						
梨	2017年	11,462	260	281	261	239	栃木 31%
	2018年	9,938	280	298	273	264	茨城 18%
	2019年	9,547	330	343	331	300	福島 16%
	2020年	6,146	504	524	484	493	千葉 15%
	2021年	7,068	371	375	357	382	長野 8%
	5ヵ年平均	8,832	331	347	325	316	
2022年見通し	7,000	360	370	340	370	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
梨	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	主力の栃木は生育順調で、入荷量は平年並の見込み。茨城、千葉は、生育期の高温により小玉傾向となる見込み。福島は、ひょう害の影響で下位等級の割合が増える見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。			注：前年と本年の4、5月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記			

切花・鉢花の9月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2017年	2, 214	51	
		2018年	1, 702	62	
		2019年	1, 888	61	
		2020年	1, 698	60	
		2021年	1, 468	63	
	5カ年平均	1, 794	59		
2022年見通し	1, 500	63			
概要	愛知、長野などから入荷。8月の天候から病害虫の被害がでており、秀品率が低下すると思われる。中旬からは秋彼岸需要もあり堅調な販売が見込まれる。				
小 ぎ	実績	2017年	2, 006	28	
		2018年	1, 599	38	
		2019年	1, 595	40	
		2020年	1, 333	41	
		2021年	1, 503	38	
	5カ年平均	1, 607	36		
2022年見通し	1, 400	40			
概要	愛知、長野、岩手、埼玉、奈良から入荷する。8月の天候の影響で病害虫が発生しており、秀品率が低下している。中旬からは秋彼岸の引合いも出て、堅調な販売が見込まれる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2017年	1, 164	44	
		2018年	1, 259	40	
		2019年	1, 198	47	
		2020年	1, 129	42	
		2021年	1, 088	47	
	5カ年平均	1, 168	44		
2022年見通し	1, 100	47			
概要	長野、北海道中心。比較的大きな山はないが、中旬以降多少増えてくる。輸入品についてはコロンビア産は依然として不調であるが、商社は国を変え、荷物を取る動きがあり、平年並と予想される。				
か す み	実績	2017年	98	157	
		2018年	96	134	
		2019年	101	133	
		2020年	108	116	
		2021年	106	150	
	5カ年平均	102	138		
2022年見通し	106	140			
概要	長野、福島からの入荷となる。上中旬は出荷が多そうだが、下旬には減少する。下旬は連休が続き、日柄もいため、ブライダル需要での引きが高まる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆ り	実績	2017年	332	177		
		2018年	289	184		
		2019年	329	170		
		2020年	305	162		
		2021年	268	188		
	5カ年平均		305	176		
	2022年見通し		270	185		
概要	オリエンタルは新潟、北海道、埼玉、岐阜からの入荷。8月中下旬は出荷が少なめであったが、9月上旬は平年並の入荷となりそう。LAは新潟、埼玉から前年並の入荷を見込む。鉄砲は兵庫、愛媛からの入荷で例年のような台風被害もなく安定した入荷を見込む。					
洋 ら ん	実績	2017年	483	71		
		2018年	410	89		
		2019年	514	68		
		2020年	316	91		
		2021年	295	104		
	5カ年平均		404	82		
	2022年見通し		300	100		
概要	愛知、鹿児島、静岡などの国内産に加え、輸入品が入荷する。デンファレはアンナの入荷も増え、全体的に増加傾向にあるが、白デンについては入荷不安定。オンシジウムも現状上位等級(4L)が多いが、次第に下位等級が増加。シンピジウムは主体のエルフィンがウイルス蔓延で入荷が見込めず、MIXが中心。カトレアは徐々に増加するが、微増で品薄感は続く。コチョウランの輸入品は現地での需要が伸び、円安による買い負けの状況で国内産含め極端な増加は見込めない。					
ば ら	実績	2017年	757	68		
		2018年	555	66		
		2019年	710	73		
		2020年	628	76		
		2021年	664	69		
	5カ年平均		663	71		
	2022年見通し		660	70		
概要	愛知、岐阜、三重、山形中心の入荷。暑さの影響で長い物は少なめだが、JA伊勢の出荷も再開されて日ごとに品質は良くなる見込み。敬老、秋分の日がらみの3連休が2週続くので、その期間の需要は例年になく高まると思われる。					
枝 も の	実績	2017年	1,555	48		
		2018年	1,346	51		
		2019年	1,352	55		
		2020年	1,212	55		
		2021年	1,165	61		
	5カ年平均		1,326	54		
	2022年見通し		1,180	60		
概要	お盆明けからシュウメイギク、フジバカマ、シンフォリカルポス、フォックスフェイス、実バラなどが遅れているがキビ、ソルゴー、コウリヤン、ワレモコウ、コニカル、トウガラシ、花茄子などは順調に入荷する。今年は中秋の名月が9月2週の週末と早く、タカノハススキの出が心配される。					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラゼナ	実績	2017年	20,063	830	
		2018年	19,943	845	
		2019年	23,289	776	
		2020年	23,582	755	
		2021年	21,998	1,084	
	5カ年平均		21,775	856	
	2022年見通し		21,000	1,119	
概要	<p>入荷量は前年をやや下回る見込みか。原木類・輸送費の高騰により流通価格は上がると思われる。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(55.9%)、2位沖縄(8.0%)、3位三重(7.0%)。</p>				
オンシジウム	実績	2017年	2,566	735	
		2018年	2,969	556	
		2019年	2,097	659	
		2020年	2,153	652	
		2021年	1,353	697	
	5カ年平均		2,228	652	
	2022年見通し		1,100	670	
概要	<p>入荷量は前年より多少の減少か。地元愛知はほぼ前年並の予想であるが、遠方に関しては相場の低迷、運賃の値上げ等もあり減少傾向。 気温が高いと開花速度が速く、鑑賞期間が短くなりがちの為、固めの出荷をお願いしたい。またバーク生産が多く水切れの可能性があるので、水をしっかりと与えてからの出荷をお願いしたい。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(84.3%)、2位高知(14.5%)、3位山梨(1.2%)となっている。</p>				
アンズ	実績	2017年	5,640	905	
		2018年	5,810	896	
		2019年	7,888	754	
		2020年	5,583	874	
		2021年	8,428	874	
	5カ年平均		6,670	855	
	2022年見通し		8,400	869	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付け内容に大きな変更はなく、6号MIXが主体となる。7号以上は赤・ピンク系が主力の色目となる。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(92.1%)、2位岐阜(3.8%)、3位長崎(2.3%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シヤコバサボン	実績	2017年	26,225	422	
		2018年	21,093	415	
		2019年	23,690	414	
		2020年	17,270	426	
		2021年	22,012	451	
	5カ年平均	22,058	425		
	2022年見通し	21,000	467		
概要	<p>猛暑の影響で花飛びがあり関東中心に入荷量が減少。8月はほぼ埼玉の山上げ物のみだが、9月からは愛知のクーラー物の出荷が始まる。価格面では3.5号～5号の引き合いが強く、6号以上はやや苦戦か。まだまだ気温が高く花の進みが早いため、蓄固めでの出荷をお願いしたい。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（51.8%）、2位愛知（48.2%）となっている。</p>				
シクラメン	実績	2017年	145,689	155	
		2018年	116,605	158	
		2019年	174,798	147	
		2020年	113,397	142	
		2021年	169,086	157	
	5カ年平均	143,915	152		
	2022年見通し	145,000	155		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。9月中旬以降からガーデンシクラメン3号ポットの入荷が始まり、4号サイズ以上は10月初旬よりスタートとなる。天候及び残暑の影響にも左右されるが、9月下旬から10月にかけて徐々に相場も安定、引き合いも強くなる見込み。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（66.7%）、2位愛知（20.4%）、3位福島（3.6%）となっている。</p>				
カランコエ	実績	2017年	48,405	195	
		2018年	36,295	205	
		2019年	47,055	199	
		2020年	32,171	230	
		2021年	34,980	249	
	5カ年平均	39,781	213		
	2022年見通し	34,000	250		
概要	<p>山上げ場で病気が出ており、入荷量は前年より減少か。盆明けより埼玉の山上げ物が入荷がはじまり、敬老の日に向けピークを迎える。山上げ物の3.5号ポット、4～6号の八重咲品種の引き合いが強く、価格面でも安定。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（68.5%）、2位岐阜（17.3%）、3位茨城（12.8%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.591
2022年9月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434